

スナップバックから自分の身を守れますか？

こちらは、英文記事「[Are you snap-safe?](#)」（2020年1月14日付）の和訳です。

ARE YOU SNAP-BACK SAFE?

DISCUSS PROBABLE SNAP
BACK ZONES BEFORE EVERY
MOORING OPERATION



摩耗した係留索の使用、ブレーキの締めすぎ、船舶の急な動きなどが、破断荷重を超過して係留ロープが破断する主な原因になっています。Gardにも、保険金請求事由として、係留索の破断に伴う深刻な怪我や死亡事故が報告されています。

スナップバックの被害を受けるのは、通常、係留索を扱う乗組員、ウインチ操作員、監督者です。破断した係留索は、破断点から係止点の距離を跳ね返る可能性があります。スウェーデンの事故調査部門が作成した[こちらの調査報告書](#)に、典型的な事故例が記載されています。

係留作業前の安全ミーティングにおいて、スナップバックの危険性だけでなく、どこがスナップバックゾーンになるのかを話し合っておくべきです。係留パターンによってスナップバックゾーンは変化する可能性があるため、甲板上にスナップバックゾーンをマーキングすることは推奨されません。マーキングすると、そのゾーン外の乗組員に誤った安心感を与えてしまうおそれがあります。[Code of Safe Working Practices（安全作業手順コード）](#)（2015年版、改訂4）では、「係留甲板の配置の俯瞰図を作成して危険区域を特定する」こと、ならびに「係留甲板全体をスナップバックゾーンと考える」ことを推奨しています。また、乗組員は互いに注意しあって、他の乗組員が安全でないエリアにいる場合は、注意を促すようにしてください。

追加情報

ケーススタディ：[Mooring operations（係留作業） \[英文\]](#)

損失防止ポスター：[Are you snap-safe?（スナップバックから自分の身を守れますか？）](#)

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gard は本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。

本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されております。翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文との内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。